

Title	表紙ほか
Author(s)	
Citation	防虫科学 (1941), 発明監製防虫剤の効果実験報告
Issue Date	1941-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/172692
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

財團法人 防蟲科學研究所 (蟲研)
發明監製防蟲劑の效果實驗報告

(羊毛防蝕劑・南京蟲驅除劑及びクロスの防蟲防風劑に就て)

京 都 帝 國 大 學 内

財團法人 防蟲科學研究所

(昭和16年1月)

財團法人 防蟲科學研究所 (蟲研)
發明監製防蟲劑の效果實驗報告

(羊毛防蝕劑・南京蟲驅除劑及びグロスの防蟲防鼠劑に就て)

京 都 帝 國 大 學 内

財團法人 防蟲科學研究所

(昭和 16 年 1 月)

緒 言

本研究室に於ては數年前から羊毛並に其の製品の防蝕劑、南京蟲、ダニ、蚤、虱等の如き家庭害蟲の驅除劑、製本用クロス類の防蟲防鼠劑及び其の他の防蟲劑に關する研究を繼續し來つたのであるが漸く是等藥劑の創製を見た。

支那事變前に於ける我國羊毛の輸入は年額實に2億圓の巨額に昇り、此の内害蟲に依る損失は年々1千萬圓と推定されてゐる。此の莫大な無益な消耗は是非共防除しなければならぬと考へたのである。最近では民需羊毛の輸入は殆んど停止の状態であるが此の羊毛非常時に當つて既存羊毛製品を蟲害から護らなければならない事を痛切に感ずる次第である。

次に近時大陸との關係が緊密になつた關係上南京蟲、ダニ等の家庭害蟲が頗る激増して來てゐる。是等の害蟲に依つて生血を吸はれて安眠を妨害され苦悶の日々を送り従つて甚しく能率を低下させられてゐるのであるが、これは統計的に表はす事が困難なために被害者以外は案外無關心であるが是は又大きな問題である。其の上是等の傷口が恐るべき傳染病の入口ともなる事と考へ合はせると此の人類の大敵は一日も早く撲滅しなければならない。戰地に於て敵よりも南京蟲の方が遙かに恐ろしいと云ふ經驗談を聞くが頷かれると同時に誠に同情を禁じ得ない。

更にクロス類の蟲害、鼠害等は誰しも經驗されてゐる事であつて大切な書類のクロスがシミ、アブラムシ或は鼠等に依つて喰害されて困つてゐると云ふ人の話を時々耳にする。

以上の様に二三の例丈けでも是等の小さい蟲に依る被害は實に想像も及ばぬ莫大なものであつて、此の被害を少しづつでも防除し、資源の愛護に當る事は我々に課せられた重大使命と痛感する次第である。

其の他爲さねばならぬ研究は枚舉すれば數限りも無いが差し當つて上記三種の驅除劑に就て略々研究を終り從來の製劑より優り且つ人畜に全く無害のものを創製し、既に工業的に製造しつゝあるのであるが最近各方面から研究結果を簡單明瞭に誰にも判る様に發表せよとの希望があるので此の機會に研究の一部を發表する次第である。

尙ほ最近では農業藥劑及び米穀害蟲驅除劑等に就いて研究に着手してゐるのであるが、これは又次の機會に發表する考へである。

財團法人 防蟲科學研究所研究室
(大阪府三島郡高槻町・京都帝國大學化學研究所内)

目 次

第一 「蟲研」羊毛防蝕劑の効果實驗.....	1
昭和11年 防蝕効果比較實驗成績.....	3
昭和12年 防蝕効果實驗成績.....	9
昭和13年 防蝕効果實驗成績.....	12
昭和14年 防蝕効果實驗成績.....	15
昭和15年 防蝕効果實驗成績.....	18
第二 「蟲研」南京蟲驅除劑の效果實驗.....	21
第三 「蟲研」クロスの防蟲防鼠劑の效果實驗.....	23